實際問題として考慮すべき

專門的技術の弊

信越電力株式會社
技師長　藏重哲三

私がかうした仕事を始めてからもう何年になるかナ、さう、數へてみるこ三十年以上になる。その間には學校の講師を少しやつたこともあつたが、晝間は現場に働いて、夜になるこ教壇に立つこいふ風で、朝は八時から夜十時頃まで働いた時代もあつた、その他は俗に所謂『土方』なるもの、全的半生であつた。

私がこの土方をやり始めたのが今も云ふ通り三十有餘年前、その三十有餘年前は誰も知つてゐる如く、我が國の文化なほ低く、あらゆる方面に於て孜々こして進歩發達さすべき道程の半途にあつた、尤も現今こても、まだまだ無限の文化への道遥ではあるが。比較的啓朦期にあつた日本であつたからして、工事方面こても同じやうに幼稚なものであつた、幼稚なものではあつたけれども、仕事には隨分大きなものが澤山あつたのである。大阪の築港はやらねばならなかつたし、横濱の築港もさうであつた、神戸の築港も、亦長崎の築港も爲されねばならなかつた、こかういふ次第で、次々に大きな工事を控へてゐた、つまり工事界に於ける一つの革命的現象が隨所に起りつゝあつた時である。即ち西洋的科學的工事の處女地こもいふべき日本であつた。

Mr. T. Kurashige.
Chief Engineer.
The Shin-Yestu Electric Power Co.
信越電力株式會社　技師長　藏重哲三氏

吾が先輩の人達はこれに對して非常なる熱心こ眞摯なる態度で献身從事してゐた、私等後輩の者はそれに指導せられ感化せられたここの如何に深いものであつたか。

その頃の工事の方法は、現今ほこ機械的ならず、まだまだ人の力を必要こした時代であつた、恰度封建の昔、例へば大阪城を築く時に、あの大きな岩石を運搬するには、殆んこ機械力を用ひず全べて人力をもつてなされねばならなかつた、こいふその『しきたり』の情勢が殘存してゐたこここて、工事に對する人々の元氣こいふものは實に旺盛なものであつた、今から考へるこ『氣が利かない』ここだつたかも知れない、けれこも朴訥で眞摯だつたここは頭が下がる程であつた。

が然し今はあらゆる機械が出來た、實に至便なものである、こ同時に人力は餘り要しない時節こはなつた、けれ共私はそれだけ人心に影響しはしないだらうかこ考へる、勿論現今の技術者諸君が眞面目な熱心な人達許りである事は認めてゐる、そしてまた吾々が若かつた時よりも多くの『氣が利く』ここをも認めてゐる、がたゞ『比較』的にすればこうも今の人は移り氣が多いやうに見受けられる氣

（３４頁へつづく）